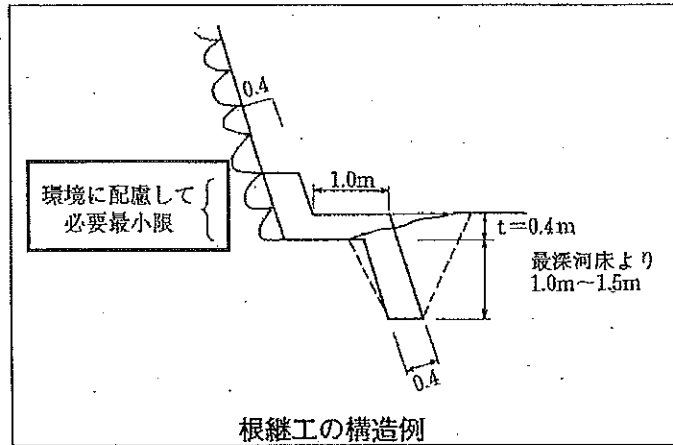


1. 根継工構造の変更

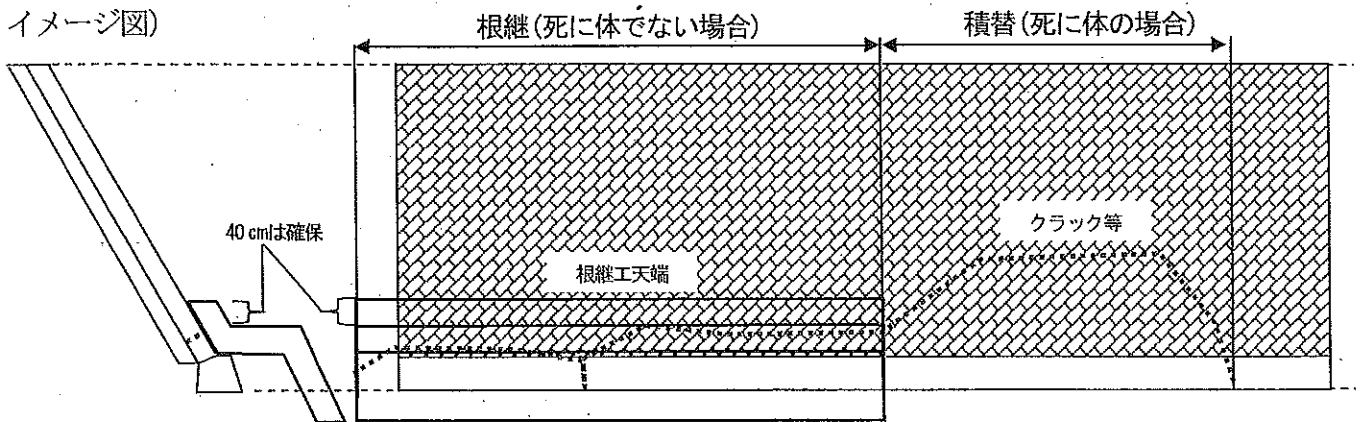
○下図（H20災害手帳P306 根継工の構造例）のとおり、根継工の立ち上がり部分に関して「環境に配慮して必要最小限」とするよう国土交通省河川局防災課の指導があった。



2. 長野県としての当面の対応

○既存施設におけるクラック等の位置より直高で40cmは確保する。（災害復旧事業に限る）

イメージ図)



※損傷範囲（一連の構造として必要かどうか）により適切に高さを設定する。

3. 根継工を採用する場合の注意事項

○施設の損傷状況を十分調査の上、申請工法を決定する。「死に体」には根継工を絶対に適用しない。

○調査不足による計上漏れ等がないよう、被災範囲および申請工法（護岸積替、腰掛型根継、一法型根継注）を適切に決定する。特に起終点近くは入念に調査を行う。

注) 申請工法の妥当性（河道状況、基礎地盤、施工時の安全性等）を整理した上で、原則として一法型の根継は採用しない。

事務連絡
平成20年(2008年)6月19日

各建設事務所・各砂防事務所
災害復旧担当係長 様

河川課災害係長

災害復旧事業の留意事項について

このことについて、災害査定にあたり留意願います
なお、建設事務所にあつては、市町村の災害復旧にあたって適切な助言をお願いします。

平成20年度からの査定にあたり変更となった事項

①河川、砂防河川災害における根継工の構造について

○今後の申請にあたっては、当面の間別紙1のとおり取り扱うものとします。

②被災前状況を説明する資料の状況について

○今後の申請にあたっては別添の様式により作成願います。

担 当	河川課 災害係 青木勉 (係長)
	福島岳史(係員) 阿部仁志 (副係長)
電 話	026-235-7311 (直通) 内線 3446
ファクシミリ	026-225-7069
防災電話	8-231-3446
電子メール	fukushima-takeshi@pref.nagano.jp
	abe-hitoshi@pref.nagano.jp

河川名	根固ブロック重量 (t)
傍陽川	4
洗馬川	4
内村川	4
室賀川	2

※乱積を標準とする。不適當な場合は、層積でもよい。

※実施設計にあたってはメーカー等を所選定委員会に諮る。

(4) コンクリートの水セメント比

全てW/C=60%以下

2. 査定設計

(1) 主事項

工種	着目点		
水替えポンプ	箇所数	釜場数を計上する。	1箇所/30m程度
大型土のう積	個数	計算により算出。	災害手帳
仮設道路	W=3.0 (4.0) m	盛土又は敷鉄板	運搬費等を計上。
残土運搬距離	指定は実数	任意は2 km	
産業廃棄物	経済比較による	As・Co・廃プラ	樹木幹根
底張	厚さ20cm以上	植石植込深2/3程度	
隔壁	20m程度に1箇所		
河川護岸	天端コンクリート計上		
根継	ラップ高 ⁵⁰ 30cm程度	ブロック一個分	
目地材	河川 セーフト	道路 エラスイト	道路 ケンタ
樹木	準備工に計上	伐採費、玉切り	積込、運搬処分費
借地料	仮設道路等	役務費に計上。	費用は積算基準

※構造詳細は長野県土木事業設計基準及び標準設計図を参照のこと。

※詳細事項は令和元年度災害手帳を熟読のこと。

(2) 水替対象流量

- ・比流量により算出する。水位観測河川の1年確率流量×流域比×渇水期率。
- ・渇水期率=過去10年の最大流量(11月~5月)/過去10年の最大流量(6月~10月)
- ・流域比は、類似する水位観測河川流域面積を分母にして算出する。